

こもりく

「～隠口の初瀬街道を歩く～」

『大神神社から長谷寺へ』

6月12日(火)10時10分三輪駅集合。雨で流れた行事の1年振りの実施。『午前中30%、午後60%』の降水確率。8時過ぎに小雨が降り、今年も駄目かと思いつつ集合場所へ。熱心な参加者が15名集合！行ける所まで行こうと出発しました。

コースは大神神社→海石榴市→玉列神社→白山神社→十二柱神社→長谷寺で、“ウォーキング”に“歴史文化”を加味してみました。

『見頃・無料』の案内で急遽、ピンクの笹ゆりが斜面あちこちに咲いている大神神社のささゆり園を散策しました。平成5年に発足した『笹ゆり奉仕団』の皆さんのご苦勞が今実っているとのこと。

ここを出る頃には傘が必要になってきました。山の辺の道を通って10代崇神天皇宮跡地・金屋の石仏・海石榴市(つばいち)観音を見て初瀬川に出ました。仏教伝来の地・遣隋使帰国時の出迎えの地として伝えられる所です。参加者がお互いに持ち合わせの知識を披露し合いながら、交通の要衝の地としての当時の賑やかな風景を思い描いたりしました。「ところで、当時の川の水量はそんなに多かったのだろうか？」単純な疑問ですが…。

椿1万本を植えた椿山を横に見て、雨が少し強くなった道を進み、正午に玉列(たまつら)神社に着きました。



(▲玉列神社にて)

ここは初瀬谷最古の神社で、大神神社の摂社です。昔から『玉椿大明神』とも称されて

おり、境内の庭には500本の椿が植えられていました。雨を避けて、境内の奉納演舞場の床や軒先に座って昼食を摂りました。なお、この神社の神宮寺であった慈恩寺(今は阿弥陀堂だけですが…)には樹齢800年のケヤキが若葉をしっかりと出していました。

昼食後は、春日神社を通り過ぎ、21代雄略天皇宮跡と伝承される黒崎地区の白山神社に進みました。ここには雄略天皇の歌碑や万葉集發耀讚仰碑(万葉集の最初の歌は天皇がこの地で歌った恋歌とされています。)が建っていました。ここで天皇の人柄・行いなどについての話題提供があり、場は大いに盛り上がりました。

雨に加えて風も出てきて、皆の足は自然と早くなり、十二柱神社には予定より大分早く到着しました。この付近は『出雲』の集落といわれますが、これは11代垂仁天皇の時代に野見宿弥が殉死の代わりに埴輪を造ることを提案して、故郷の出雲の国から連れてきた職人達が住み着いたことから起こった地名です。この埴輪作り技術が今も『出雲人形』に受け継がれています。この神社には野見宿弥を祭る五輪塔があり、また四人の力士で担いでいる珍しい狛犬もあります。また境内には25代武烈天皇宮跡の石碑も建っていました。(▼野見宿弥の五輪塔前で)



小雨の中、最後の目的地である長谷寺に向って更に早足で歩き出した。2時近くに長谷寺と近鉄長谷寺駅への分岐点に到着、ここで話し合いを行い解散となり、長谷寺に参拝する人と反省会を行うメンバーとの二手に分かれました。

なお『初瀬街道』はこの先、長谷寺、榛原、名張、青山を経て津に向かい北からの『伊勢街道』と合流して伊勢神宮に向います。

今回歩いた距離は約9Kmでしたが、大和王朝初期(10～25代)の話題が多い例会となりました。(文責：森英雄)